

辺野古通信

第29号 2012年8月16日



8.5 首都圏集会に1000人

発行: 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜)
沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

オスプレイ配備阻止！ 低空飛行訓練を許さな！

■台風11号で延期になったオスプレイ配備反対沖縄県民大会は9月9日開催が決まった。2年前の普天間県外・国外移設を求める県民大会のシンボルカラーはイエローだったが、9.9県民大会で沖縄のひとが日米両政府に突きつけるのはレッドカードだ。■防衛省は事実誤認だらけのオスプレイ・パンフを作成し、4月モロッコ、6月フロリダの墜落事故に関わる米軍の言い分をそのままHPに掲載(6/26)。大会開催予定日直前、パネッタ米国防長官と会談しオスプレイに試乗して「大変快適」とのたまたま安全性を実証した気になっている森本防衛相と防衛官僚のお気楽な姿に、野田政権の沖縄政策の本質が象徴されている。パネッタは「10月普天間配備は既定方針」と公言し、森本は「配備は事前協議の対象外」と平然と表明する。沖縄の総意として示されるレッドカードの(「日米同盟」にとっての)深刻な意味を、日米両政府は思い知ることになるだろう。■沖縄の闘いをここまで押し上げた背景には、3000日を越える座込みで「普天間代替施設」という名の巨大基地建設を阻止し続ける辺野古の闘いがあり(7月4日「3000日の集い」開催)、オスプレイの訓練基地建設に抵抗する東村・高江の闘いがある(7月1日に「座込み5周年報告会」開催)。■7月31日、北部市町村会が辺野古移設撤回決議をあげた。8月5日に台風の中を訪沖し知事と密会した前原民主党政調会長が島袋前名護市長らと会談。8日には名護市内で集会

を開催するなど移設推進派の動きは相変わらずだが、かつて移設受入を支持した市町村会の撤回決議は時代の変化を確信させる。■高江では、7月中旬から、沖縄防衛局による建設工事強行の動き。重機を強行搬入し、座込む住民の頭越しにクレーン車で作業するという信じがたい光景が繰り返された。米軍のオスプレイ配備の動きと連動した沖縄防衛局の強硬姿勢。どこの国の「防衛省」か！■オスプレイが強行搬入された岩国では、保守系の市長も山口県知事も反対、7月19日には全国知事会が緊急決議を出すに至った。配備への懸念の声がここまで広がった背景には、①米軍関係者などの証言でオスプレイの構造的欠陥、軍事産業と米軍上層部の圧力による事故隠し・事故率等のごまかしが暴露されたこと②米軍の環境審査報告書により、低空飛行訓練が日本全国で展開されることが明らかになったことがある。■米軍が航空法を無視した低空飛行訓練を繰り返し、墜落事故も起こしていることは、以前から問題視されていた。この危険な低空飛行訓練を、構造的欠陥を持つオスプレイが実施する。国内法を逸脱した低空飛行訓練がまかり通る日米安保の問題性が浮かび上がる。■8月5日に1000人結集し首都圏集会とデモが展開された。神奈川からも配備反対の声を！8.25 神奈川集会へ
■辺野古・高江カンパは累計1,311,305円(8月7日現在)。引続きカンパを！
郵振 00210-0-2021 沖縄連続講座

オスプレイ配備と違法爆音を許さない神奈川集会へ！

8月25日(土)15時半 やまと公園(相鉄・小田急線大和駅小田急線側口3分)

厚木基地もオスプレイの拠点に！沖縄配備反対の声を神奈川から！

■主催: 厚木基地爆音防止期成同盟・第四次厚木爆音訴訟原告団・県央共闘会議・神奈川平和運動センター

8. 5首都圏集會に1000人！ 9. 9沖縄県民大会に呼応し国会包囲へ！



オスプレイ模型

ジュゴン

8月5日、東京都内・日本教育会館でオスプレイ配備に反対する首都圏集會が開催された。沖縄の県民大会と同時に開催を予定して準備されたが、沖縄は突然発生した台風11号で9月9日に延期。ならば No! Osprey のより大きな声を首都圏で上げよう！と1000人が集まった。沖縄・一坪反戦地主会関東ブロックをはじめ東京や神奈川など首都圏で活動する28の市民団体と個人からなる実行委員会主催。壇上には、墜落するオスプレイの模型とオスプレイ反対のジュゴンが飾られ

た。東大大学院の高橋哲哉さんは「沖縄に圧倒的な犠牲が押しつけられる構造的な沖縄差別がある。沈黙は差別を容認することになる。今こそ、原発再稼働に反対するのと同じように、オスプレイ配備に反対する声を上げていこう。」と問題提起。東京沖縄県人会の島袋徹事務局長は、「普天間固定化やオスプレイ配備に反対する」アピール文を読み上げた。首都圏で高江のヘリパッド反対運動を進めている「ゆんたく高江」の浦野薫さんは、オスプレイと同サイズ（幅 25.8m、長さ 17.5m）の白い布を客席に広げ、巨大さと危険性を改めて訴えた。厚木基地爆音防止期成同盟の藤田栄治委員長は、「政府は安全性の確認を待つのではなく、米国に持ち帰れと言うべきだ」と批判した。沖縄現地からは、沖縄平和運動センター事務局長の山城博治さんとヘリ基地反対協議会の安次富浩さんから電話でメッセージが寄せられた。山城さんは、「県民大会延期は断腸の思いだが、無謀な沖縄配備を断念させるため、さらに大きな県民大会を準備し成功させたい」と決意を語った。安次富浩さんは、「森本防衛相がちょっと試乗して『非常に快適』などと言ったがとんでもない。1時間半の試乗で安全だと言えるのか。パフォーマンスには騙されない」と訴えた。配備を断念させるまで闘いは終わらない。9.9 沖縄県民大会(11時宜野湾市海浜公園)に呼応する国会包囲行動が準備されている。9月9日 10時半 国会包囲行動へ多くの参加を！

おススメの一冊



注文は協同センター・労働情報へ Tel.03-6675-9095

この本の元になったミニ冊子はリムピースと横須賀の市民グループの手で3月に発行された。その後、辺野古の座込みテントや那覇のジュンク堂書店に並んでいるのを見かけた。リムピース RIMPEACE は全国の反基地運動のネットワーク。沖縄の闘いの現場でも活用され、オスプレイの問題点を全国に広めるひとつのきっかけを作った。そのミニ冊子を元に、沖縄平和市民連絡会の真喜志好一さんと共同で仕上げたのが、『オスプレイ配備の危険性』（七つ森書館 1200円+税）だ。I章でオスプレイが全国展開することの意味を探り、II章で米軍内部の証言を中心に機体の構造的な欠陥を指摘。III章で「沖縄のオスプレイ問題」の経緯を分析する。タイムリーな出版であり、オスプレイ配備の問題点を掘り下げるには必読文献だ。パンフ発行後、沖縄タイムスと琉球新報が米国内で取材して、新たな事実が次々と暴露されている。米国議会内でもオスプレイ製造の巨額な予算が問題視され始めている。オスプレイ配備問題は、強固に見えた日米同盟を揺るがす大スキャンダルに発展する予感がする。60年安保に匹敵する巨大な再稼働反対・脱原発デモが総理官邸と国会を包囲し「日米原子力同盟」を脅かしつつあるのと同じように。一読を！